

## オープン市場短信 (2011年7月)

2011.7.08

### ◆ 6月のCP市場動向

6月の一般事法CP新規発行額は約3兆9500億円で、期落ち(約3兆9700円:当月発行分含む)とほぼ同額の発行になった(市場入札ベース)。特徴的な動きとしては、①鉄鋼会社が、四半期決算期末要因から有利子負債圧縮のため月末残の大幅縮小を行なった(5月:6900億円→6月:1890億円)こと。②電力会社が、夏場にかけての資金調達ニーズと厳しい社債発行環境により、CPでの資金調達増加を行なったこと(8180億円→1兆160億円)。③電気機器銘柄の発行が増加(7483億円→8870億円)したことがあげられる。

発行レートの推移としては、ディーラー等の積極的な運用ニーズから、全般的に前月比弱含みでの動きとなった。しかし、投資家が慎重な運用姿勢を示した電力銘柄ではレートは強含み、他の一般銘柄を4~10BP程度上回る出会いとなった。

新発(3M)物の発行金利は、最上位銘柄(a-1+格)で0.104%~0.220%、一般事業法人(a-1格)で0.113~0.126%、その他金融銘柄(a-1格)では0.116%~0.180%であった。

#### 【格付け別の発行レート】

#### 6月のCPLレートレンジ

(単位%)

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(オペ適格)	0.104% ~ 0.200%	0.111% ~ 0.182%	0.112% ~ 0.220%
a-1(オペ適格)	0.107% ~ 0.122%	0.111% ~ 0.125%	0.111% ~ 0.126%
a-1+(リース銘柄)	0.108% ~ 0.115%	0.114% ~ —	0.119% ~ —
a-1(リース銘柄)	0.113% ~ 0.135%	0.117% ~ 0.122%	0.116% ~ 0.131%
a-2	0.120% ~ ケ0.50	0.115% ~ ケ0.60	— ~ ケ0.70

#### 《CPオペ》

CP等買入オペは、10日・17日・24日と3回の入札があり、オファー額は各回3千億円にて実施された。オペ残高は、6月末時点では1兆6288億円に積み上がった。高クーポンでのオペ玉が減少したことや発行レートの低下が影響し、按分・平均落札レートは、回を追うごとに低下する動きとなった。これによって、比較的タームの長いオペ玉もオペに応札し易くなったと思われる。

#### 日銀(資産買入等の基金)によるCP買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取 利回り較差	平均落札 利回り較差	按分比率
6月10日	6月15日	3,000	4,960	2,960	0.011%	0.019%	40.0%
6月17日	6月22日	3,000	5,180	2,725	0.007%	0.011%	16.8%
6月24日	6月29日	3,000	4,248	2,952	0.004%	0.006%	43.0%

(注) 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

## 《 A B C P 》

A B C Pの月末残高は、前月比 2437 億円の増加となり、2 兆 2557 億円となった。

## 《短期社債残高》

業態別残高推移を見みると、一般事法が前月比2.0%減少したが、その他金融法人が1.61%、金融機関が3.72%、A B C Pが12.11%増加した。結果、月末発行残高は15兆4699億円となり、前月比3557億円の増加となった。

6月は、花王・興和不動産の2社が新規発行を行ったことから、通算の発行企業数は507社となった。月末時点における発行登録（証券保管振替機構）企業数は、491社であった。

### 【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	6月末残高	5月末残高	増減
一般事法	45,447	46,373	▲ 926
その他金融	53,021	52,183	838
金融機関	33,674	32,466	1,208
( 政府系金融	470	500	▲ 30 )
( 銀行等	14,943	13,686	1,257 )
( 証券	18,261	18,280	▲ 19 )
A B C P	22,557	20,120	2,437
計	154,699	151,142	3,557

(注:買入消却分含む)

## 《 C P 現先市場 》

月中現先 (S/N) レートは、月中を通じてほぼ安定推移し、0.105%程度となっていた。

### ◆ 7月のC P市場動向

7月中のC P償還額は約2兆8900億円で、前年同月の償還額（約3兆8400億円）を大きく下回っている（除く、ダイレクトC P・金融機関発行C P・A B C P）。

発行市場の動きとしては、良好な発行環境を背景に発行残高の増加を見込む向きがある。①6月末に、決算要因で残高を落とした鉄鋼等の復活発行。②一般事法の賞与資金手当てでの調達。③社債市場での資金調達が厳しくなっている電力の発行ニーズ。これらの要因から、月末残高は久し振りに16兆円台に復活すると思われる。

今月の発行レートは、一般銘柄3M物では0.11%台前半～0.12%近辺の動きを予想する。その他金融・リース銘柄(a-1格銘柄)の3M物では、0.11%台半ば～0.17%前後を予想。

## 《 C P オペ 》

今月は、14・22日の2回のオファーが予定されている。今月末のオペ残高は、今月中の期落ち等を勘案すると、1兆8千億円前後になると思われる。

今月のオペの足切及び落札平均レートは、引受レートの低下もあり、前回オペよりも

弱含みとなる事を予想する。また、日銀は6月30日に8月のオペスケジュール(10日と24日に各回3,000億円)を発表したが、今後のオペ残高如何ではオファー額の減額も想定される。 買い現先オペは、今月も見送られるだろう。

#### 《CP 現先市場》

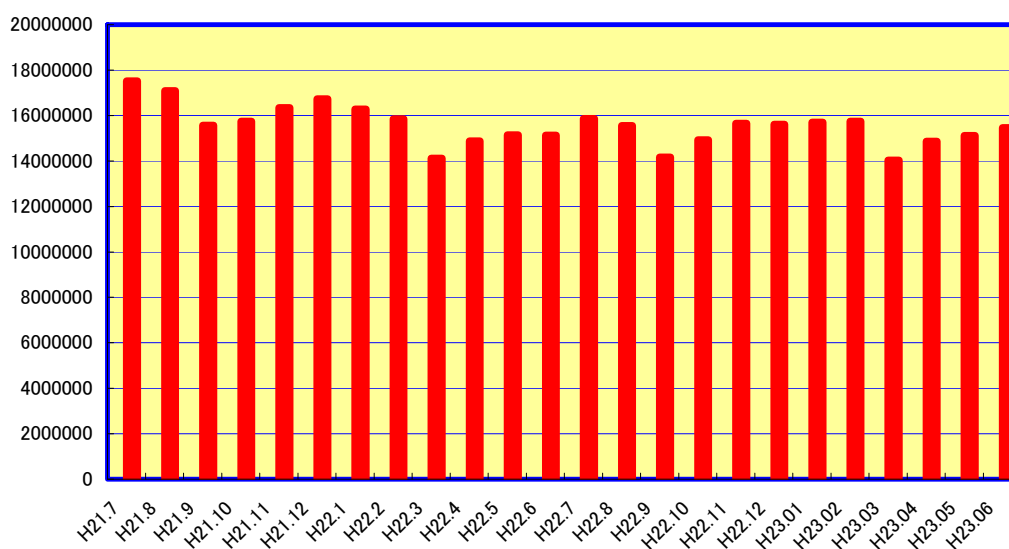
今月も、日銀の資金供給が引き続き高水準を維持すると見込まれるため、インターバンク・レポレートは落ち着いて推移し、現先レートについても低位安定を予想する。 月中現先レートは、0.09%台後半~0.10%台半ばでのレンジとなるだろう。

#### 参考資料

短期社債月末残高 (H22年7月~H23年6月)

発行登録企業: 489社 (発行実績あり 507社)

(過去2年間の残高を表示)



## 6 月末発行残高ベスト 20

### 6月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	6月末残高	5月末残高
1	三菱UFJリース	834,800	852,200
2	三井住友ファイナンス&リース	737,700	742,800
3	東京センチュリーリース	589,000	581,400
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	579,500	583,210
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	380,000
6	大和証券キャピタルマーケット	410,980	384,880
7	JXホールディングス	406,000	373,000
8	三菱UFJモルガンスタンレー証券	403,300	426,600
9	クレディ・アグリコル銀行	392,500	399,200
10	みずほ証券	384,800	366,200
11	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	378,000	373,590
12	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	370,310	320,260
13	興銀リース	329,100	327,700
14	芙蓉総合リース	287,200	288,100
15	野村証券	273,500	298,500
16	SMBC日興証券	246,000	207,800
17	日立製作所	245,000	150,000
18	シャープ	241,000	260,300
19	関西電力	239,000	181,000
20	JA三井リース	232,000	225,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会